



ピース! Peace

Team Shiroyama

Peace 飛び交う、楽しい学校をつくろう!

HP <https://www.nagasaki-city.ed.jp/shiroyama-e/>

令和 6 年 5 月 1 日

学校だより第 2 号

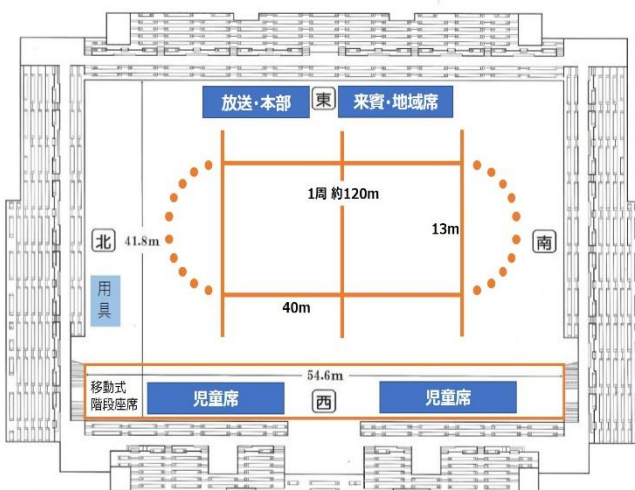
校長 宮田 幸治

城山小スポーツフェスティバルに向けて

先日 tetoru にてお知らせしましたが、城山小スポーツフェスティバルに関わってミニ情報を…。

会場となります県立総合体育館は、別名を「アリーナかぶとがに」と呼ばれますが、「かぶとがに」はサブアリーナの屋根の形です。屋根をつまんだようにして見える屋根の1本の線は、松山町の原爆落下中心地の方に向いているとのこと。また、体育館の外装には、原爆で破壊された旧浦上天主堂壁面の煉瓦の質感を再現した煉瓦タイルが使用されています。(姜 優子氏(北九州市立大学)調べ)このように、県内有数の体育館施設である県立総合体育館は、「設計時に平和への願いが込められて建設されている」と言っても過言ではないかもしれません。校区内にこのような施設があることを学校の強みとして、なかなか利用予約が難しい中に、今年度の運動会を県立総合体育館メインアリーナで行うことができることは、大変ありがたいことだと思っています。

アリーナのフロアは、縦 42m×横 55mで、約 120mのトラックを引いて競技を行います。児童席は移動式の階段席です。620 名が座ることができ、学年を越えて一体となった応援をすることができそうです。保護者席は、2階の固定席となります。5,600 名収容可能のアリーナですから、人数の制限なしで大丈夫です。保護者席については、今年度のフェスティバルの趣旨を踏まえながら場所割りを行うことも考えています。また、フロアにカメラ席を設ける予定で検討しています。詳細が決まりましたら、後日、お知らせします。



「叱られること」の大切さ 1

先輩の校長先生といろいろなお話をされていて、とても参考になる資料をいただいたので、何号か続けてご紹介します。

『大学の講義中に女子学生がガムを噛んでいた。講義の途中で、それに気付いた教授が「君はなんて講義中にガムを噛んでいるのですか。」とがめた(当然です)。するとその女子学生は、けげんそうな顔で「講義中にガムを噛んじやいけないんですか?私は、今まで誰からも叱られたことはありませんでした。」と平然と答えた。』というのです。

私は近年、子供たちは叱られ慣れをしていないなあと思うことがしばしばあります。「子供は褒めて育てよ」という教育法は正しい考え方です(私もそのように思っています)が、一方で「子供は叱ってはならない」「叱るのは逆効果だ」という単純な誤解が大人に生じていることも事実です。その結果「上手な叱り方」ができる大人がめっきりと減っているような気がしてなりません。そうなる子供は大変です。子供は、褒められたことを「してよいこと」として覚え、もっと褒められたいと思い、ますますよいことに励むようになります。一方、叱られたことは「してはいけないこと」として覚え、二度と叱られたくないと思い、それを繰り返さないように取り組みます。このようにして子供は、世の中の「善悪の判断」を少しずつ覚えていきます。ところが、正しく叱られた経験が少ない子供は、判断力が育ちにくく、将来大事な場面で失敗することも考えられます。叱られ慣れていない子供は、必要・有益な指導に対して反感をもったり無視したりして、自らの成長を妨げることもあるでしょう。逆に、「叱られ上手な子供」がいます。この子たちは、大人の指導を素直に受け止め、大人から気に入られ、目をかけられ、手をかけられ、順調に成長を遂げる、実に上手な生き方をする子供たちです。今回は「叱られ上手な子供」についてです。